



日本自動車会議所は3月17日、東京・港区の日本自動車会館で第289回会員研修会を開催しました。リモートも併用し、全国自動車会議所など各地から計約50人が参加しました。今回は「世界経済の局面変化と人材戦略の課題」をテーマに、講師には日本総合研究所副理事長（当時、現在は法政大学経営大学院イノベーション・マネジメント研究科教授）で、マクロ経済政策や労働経済分析が専門の山田久氏を



山田 久氏

お迎えしました。

講演では、ロシアのウクライナ侵攻やウィズコロナ下の現状など世界の政治・経済の枠組みが大きく変わる中、グローバルに物価基調の変化が生じ、エネルギー価格などのコスト高が到来している点を詳しく解説しました。日本経済が直面する課題にも触れ、「世界的なインフレ圧力が強まり、消費者にとっても企業にとっても持続的な賃上げが不可欠」などと指摘しました。

コロナ禍以降は予想以上に人手不足が目立っており、「人材不足解消にはダイバーシティとリスクリソング（学び直し）に取り組むことも大きなカギ」と企業経営の重要課題として取り上げていました。その上で「人材投資を促進し、非正規労働が多い女性やシニアの本格活躍を進めることが経済成長につながる」と説明しました。

日本自動車会館で「ユーザーの生の声」をパネル展示 ユーザー直筆のパネル224枚を紹介

自動車税制改革フォーラム 1階エントランスホールで2月16日～3月27日まで

当会議所や日本自動車連盟（JAF）など自動車関係21団体で構成する自動車税制改革フォーラムは昨年、全国の自動車ユーザーから「クルマの税金」に対するご意見を集める活動を展開し、昨年末までに2,077人から貴重なご意見などをいただきました。このうち実際にユーザーに書いていただいた実物のパネル224枚を、東京・港区の日本自動車会館1階エントランスホールで2月16日～3月27日まで展示しました。

2017年から実施している「ユーザーの声を集める活動」は、新型コロナウイルス感染症防止のため一時中断していましたが、十分な感染対策を行い細心の注意を払うことにより昨年、3年ぶりに再開。全国47都道府県すべてで実施し、北海道、東北、関東、中部、関西、中国、四国、九州の全国8地域別に紹介しました。日本自動車会館でのパネル展示は、フォーラムとして初めての取り組みです。



①日本自動車会館1階エントランスホールに224枚のパネルを展示。②8地域ごとにユーザー直筆のパネルが並ぶ

自工会「自動車図書館」の蔵書を 機械振興協会「BICライブラリ」に統合

今秋の閲覧再開に向けて準備

日本自動車工業会が運営する「自動車図書館」が、機械振興協会の「BICライブラリ」と統合することになりました。現在、日本自動車会館1階にある自動車図書館は休館していますが、今回の統合により、蔵書類は同会館から1kmほど離れたBICライブラリで閲覧できるようになります。両者では統合に向けて準備を進めており、自動車図書館の蔵書の閲覧再開は今年秋ごろになる見通しです。

自動車図書館は、2002年から自工会が運営しており、2004年の日本自動車会館開設に伴い同会館1階に移転されました。国内外の自動車に関する約1万2,000冊の文献や400本の映像資料等を所蔵する国内でもユニークな自動車専門図書館として知られていましたが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響で2020年から長期間にわたり休館していました。

BICライブラリ（旧「機械工業図書館」）は、機械振興協会の設立以来、機械情報産業の専門図書館として多くの利用者に活用されてきました。2011年5月に「BIC（ビジネス・インフォメーション・コモンズ）ライブラリ」としてリニューアルオープンし、図書館機能に加え、機械産業を中心とした各種ビジネス情報を提供しています。

自工会では、「この度、自動車図書館の蔵書を統



休館前の自動車図書館

合することとなり、幅広い分野を網羅することで報道関係者や研究者、学生の方々にとって、より利便性の向上が期待されます」としています。

■BICライブラリ（旧「機械工業図書館」）

〒105-0011 東京都港区芝公園3-5-8

機械振興会館地下1階

<http://www.jspmi.or.jp/biclibrary/>

・開館時間：月～金曜日 10：00～17：00
（16：30入館受付終了）

・休館日：土曜・日曜・祝祭日
毎月の最終金曜日

8月24日（機械振興協会創立記念日）

※年末年始、臨時休館、開館日・開館時間の変更については、機械振興協会ホームページの「お知らせ」にてご確認ください。

故・豊田章一郎氏「お別れの会」

東京、名古屋、豊田の3会場で開かれる

当日、日本自動車会館で半旗を掲げて哀悼

日本自動車会議所名誉顧問でトヨタ自動車名誉会長だった故・豊田章一郎氏の「お別れの会」が4月24日に開かれます。東京、名古屋、豊田の3会場で開かれ、お別れの会委員長は故人の長男でトヨタ自動車会長の豊田章男氏が務められます。

豊田章一郎氏は本年2月14日に逝去され、享年97歳。当会議所第11代会長として、日本自動車会館を開設するなど自動車産業・業界の連携や発展に尽力されました。日本自動車会館ではお別れの会当日、

故人を悼み、半旗を掲げて哀悼する予定です。

■故・豊田章一郎氏「お別れの会」

<日時> 4月24日（月）14：30～16：30

<場所>

・東京会場：

ホテルニューオータニ ザメイン1階

芙蓉の間（東京都千代田区紀尾井町4-1）

・名古屋会場：

ミッドランドスクエア5階ミッドランドホール

（愛知県名古屋市中村区名駅4-7-1）

・豊田会場：

トヨタ自動車株式会社 本館ホール

（愛知県豊田市トヨタ町1）



国 内最大級の自動二輪車関連展示会「第50回東京モーターサイクルショー」が3月24日～26日まで、東京・江東区有明の東京ビッグサイトで開催されました。最新車両や人気車種に黒山の人だかりができ、目を引く二輪関連商品の展示、多彩なイベントなどが行われ、会場内は来場者の熱気に溢れていました。3日間の延べ来場者数はコロナ禍だった前回より1万6,000人増の13万9,100人(12.7%増)で、コロナ前の開催と同様の盛況ぶりとなりました＝写真。

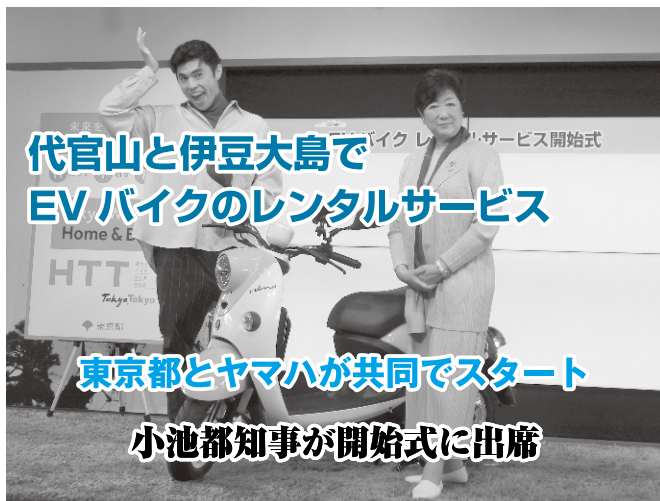
今年で50回の節目を迎えた同展示会は、出展者数166(前回153)、総小間数1,018(同948)といずれも前回は上回り過去最大の規模で開催されました。会場内ステージでは「自工会 二輪車事故防止啓発

映像」や「高校生の交通安全教育」など、来場者に安全への意識を持ってもらうアピールが行われ、テレビで放映中のバイク番組の出演者によるライブショーなどが人気を集めていました。また、屋上展示場では警視庁白バイ隊による運転の基本を学べるワンポイントレッスンや女性白バイ隊が華麗な運転テクニックを見せるドリル走行に来場者は魅了されていました。

主催者の東京モーターサイクルショー協会では、今回の開催テーマを「#バイクでつながる」とし、バイクを通じて人、モノ、コトが多様につながる機会創出と次世代のユーザーづくりを意識した、としています。会場では、バイクと一緒に撮った写真をSNSに投稿しようという呼びかけがあり、最新のバイクにまたがり写真を撮る来場者の姿が目立ちました。

同協会の赤坂正人会長は、初日の開会式で「二輪車に対する社会の厳しい目を改善する目的で始まり、50回目を数え過去最大規模で開催することができました。今後も若年層が安心・安全にオートバイライフを楽しんでもらえる啓発活動を続けていきます」と挨拶。二輪車愛好家のすそ野を広げるとともに業界発展につなげていく考えを示しました。

〔東京都自動車会議所〕



東 京都が楽器・音響機器メーカーのヤマハと始める共同事業「EVバイクレンタルサービス」の開始式が3月16日、東京・渋谷区の「代官山T-SITE 蔦屋書店」のイベントスペースで行われました。開始式では小池百合子都知事とタレントの小島よしお氏によるトークセッションが行われ、小池都知事はEVバイク購入時の都の補助制度などに

ついて説明するとともに、「大自然のど真ん中でバイクを操るのはとても爽快なこと。ぜひEVバイクを楽しんでください」と話しました＝写真。

東京都は都内で新車販売される二輪車を2035年までに100%非ガソリン化することを目指しており、非ガソリン化に向けた取り組みを行う民間事業者を支援しています。ヤマハでは、東京都の「EVバイク等利活用促進事業」の一環として、多言語対応EVバイクレンタルサービスを代官山と伊豆大島で開始。同サービスを推進するにあたり、ヤマハはレンタル事業者に多言語対応型レンタルシステムを提供します。

同システムはレンタル事業者の店舗に設置するタブレット端末とユーザーとの間で多言語で予約などのやり取りをしたり、ユーザー側の端末に多言語で観光音声ガイドを提供したりできます。当面、ヤマハ発動機製「E-Vino」を代官山エリア、伊豆大島のそれぞれに各6台設置。料金は3時間2,750円などとしています。

〔東京都自動車会議所〕